呉市教育委員会会議録
(令和7年4月25日定例会)

呉市教育委員会

呉市教育委員会会議録
令和7年4月25日定例会

- 1 開催日時 令和7年4月25日（金） 15：00開会
15：25閉会
- 2 開催場所 758会議室（呉市役所7階）
- 3 出席委員 教育長 寺本有伸
教育長職務代理者 佐々木元
委員 大之木小兵衛
委員 若野文江
委員 藤脇真美 欠席委員なし
- 4 出席職員 教育部長 石川直之
教育部副部長 横田三奈
教育部副部長 伊藤賀世
教育部参事補兼呉高等学校事務長 羽田光利
教育総務課長 新本康司
学校施設課長 瀧川孝徳
学校教育課長 木屋善貴
学校安全課長 田村峡平
学校施設課主幹 森脇将二
教育総務課課長補佐 橋本優子
- 5 傍聴者 0人
- 6 日 程
(1) 会期決定について
(2) 前回会議の報告
(3) 報告第9号 文教企業委員会所管事務調査報告書について

(15:00)

教 育 長 それでは、委員の2分の1以上の出席をいただいておりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により、これより定例会を開会します。

それでは、日程第1の「会期決定について」を議題とします。

お諮りします。会期は、本日1日としたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

(異議なしの声)

教 育 長 御異議なしと認めます。

よって会期は、本日1日と決定されました。

本日の会議録署名委員は、大之木委員・若野委員にお願いいたします。

それでは、日程第2の「前回会議の報告」を求めます。

橋本課長補佐 (令和7年3月25日定例会について報告)

報告第9号 文教企業委員会所管事務調査報告書について

教 育 長 それでは、日程第3の報告第9号「文教企業委員会所管事務調査報告書について」を議題とします。

事務局の説明を求めます。

木 屋 課 長 それでは、報告第9号「文教企業委員会所管事務調査報告書について」、御説明いたします。

資料の5ページ「はじめに」を御覧ください。

呉市議会の常任委員会の一つである「文教企業委員会」は、その部門に属する事務に関して調査を行う権限を有しています。

この所管事務調査は、市から提案された予算案や条例案などの議案を審査するものとは異なり、本委員会が自主的にテーマを設定し、調査を行い、執行機関に対して提言を行っていくこととしています。

本委員会は、令和5年8月から令和7年2月にかけて「学校現場におけるタブレットの効果的活用」について調査を行いました。

なお、本委員会は、岩原委員長ほか7名の委員で構成されており、呉市議会の令和7年3月定例会本会議において、岩原委員長が本報告書により、報告を行っています。

6ページを御覧ください。

「調査項目選定の経緯」については、次のとおりです。

呉市では、GIGAスクール構想の実現に向けて、令和3年度から、呉市立小・中学校に在籍する全ての児童・生徒に一人1台のタブレットを配備し、様々な教育活動を推進しています。

一方で、授業等での活用は進んでいるものの、蓄積された児童・生徒の教育データを利活用するには十分に至っていないことや、タブレットの活用による教職員の働き方改革の推進、児童・生徒が抱えた問題や悩みの早期発見かつ迅速に対応するシステム構築などの課題があることから、より一層、授業改善や個別最適な学びを

推進するためにも、これらの課題に対応するため、「学校現場におけるタブレットの効果的活用」について、調査検討を進めることとされました。

7ページを御覧ください。

7ページから11ページまでが、「調査の経過」になります。

本委員会では、約1年半にわたる調査の中で、学校現場におけるタブレットの効果的活用について調査を進め、これらの先進事例について研究するため、令和5年度は、東京都墨田区、埼玉県新座市、神奈川県小田原市を、令和6年度は、大阪府枚方市、奈良県奈良市、兵庫県姫路市をそれぞれ視察しています。

12ページを御覧ください。

調査を経て委員間で討議が行われ、委員から出された主な意見・提案が記載されています。

13ページを御覧ください。

文教企業委員会からの「提言・まとめ」になります。

内容を読み上げます。

G I G Aスクール構想の実現に向けて、本市においても授業等における積極的なタブレットの活用が進んでいる一方、蓄積された児童・生徒の教育データを十分に利活用するには至っていないことや、タブレット等の活用による教職員の働き方改革の推進、児童・生徒が抱えた問題や悩みの早期発見かつ迅速な対応の充実・強化などが課題となっている。これらの課題に対応するため、文教企業委員会として次の4点を提言する。

「①ICT関係ツール導入後の活用について」、学習支援ソフト、保護者連絡システム、校務支援システム等のICT関係ツールを導入し運用していることは、他自治体と比較しても引けを取らない取組であり、大変評価できる。今後、これらで得られたデータや知見の活用について検討すること。

「②安定したネットワーク環境の整備について」、児童・生徒が学習しやすいネットワーク環境を整備し、教職員の負担軽減のためにも、W I - F I等の安定したネットワーク環境の整備に努めること。

「③SNS相談アプリの導入について」、児童・生徒が抱えた問題や悩みの早期発見、迅速な対応、関係機関への早期支援につなげるための相談体制を強化するため、SNS相談アプリは非常に有益であることから、本市においても導入を検討すること。

また、導入に当たっては、児童・生徒からの相談に、迅速かつ的確に対応する必要があることから、学校や教育委員会のみならず、こども部と連携して専門的かつ多角的に対応すること。

「④デジタル教科書の積極的な活用について」、児童・生徒の登下校時の負担軽減の観点から、デジタル教科書の積極的な活用は大変有益であり、児童・生徒が積極的にデジタル教科書を活用している状況を視察したことを踏まえ、呉市独自でデジタル教科書の積極的活用を進めていくことについて検討すること。

教育委員会としましては、本委員会の提言を受け、児童・生徒の学習データの利活用やICTの効果的な活用促進のための環境整備に引き続き取り組んでまいります。

それにより、児童・生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充

実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげてまいります。あわせて、教職員のICT活用指導力のさらなる向上を図るとともに、ICTの効果的な活用を「教職員の働き方改革」にもつなげてまいります。また、児童・生徒が抱えた問題や悩みの早期発見かつ迅速に対応するため、相談できるツールの導入を検討してまいります。

なお、呉市教育委員会では、令和7年1月から、奈良教育大学大学院 小崎誠二教授に呉市ICT教育推進アドバイザーを委嘱しており、アドバイザーの助言を仰ぎながら、これらの取組を進めていきたいと考えております。

説明は以上です。

教 育 長 ただいま、事務局から日程第3の報告第9号「文教企業委員会所管事務調査報告書について」の説明がありましたが、これについて、御質問、御意見がありましたらお願いいたします。

大之木委員 提言・まとめの中で、教育データを十分に利活用するという部分と、①ICT関係ツール導入後の活用についてのデータや知見の活用。この利活用、活用とは具体的にどのようなことを指しておられるのか御説明いただきたいと思います。

木屋課長 データの利活用ということですが、子供たちがどのような学びを日々積み重ねているのか、といった学習ログの活用がまず考えられます。

例えば、学習の振り返りを、今までであれば、ワークシートに書いてそれを深めるといったようなことをしていますが、これを、タブレットを使用し電子化することで、より、子供たちが自分の学習を、いろんな場面で振り返ることができるといった、子供たち自身が自分の学習をデータとして振り返ることがあります。

また、教員が子供のデータを活用することも考えられます。

ある児童が、どのような学びをして、どこでつまづいているのか、AI型デジタルドリルQubenaでは、子供の学習データを、教員の手元で見ることが出来ます。そういった子供のデータを教員が確認することで、例えば授業の中でどういう支援をすればいいのか、どういう声掛けをすればいいのか、次にどういう問題を子供たちに用意してやればいいのかといったことに活かして、授業改善につなげていくというようなことがございます。

学習に限らず、生徒指導上、子供たちが小学1年生から、どういう環境で来ているのかという配慮が必要といったことも、データとして残すことで、必要な支援をしていく、あるいは、保護者連携を進めていく、関係機関との連携を進めていくことができます。

今までどちらかというと担任がやっていたことを、データとして蓄積して、次につないでいくことで、より個別最適な学びであったり、協働的な学びであったり、個に応じた支援につなげていけるように、そういう点でデータを活用していきたいところがございます。

大之木委員 感想になります。

私が経営する会社も遅ればせながら、このRPA、AIなど、いわゆるDX化に取り組み始めましたが、つまづきました。やったはいいがその先が進まない。

つまり、この活用をどうしたらいいのかという本末転倒なことに陥りまして、それを解決する委員会を組織し、何とか今また動き出しました。

そこで、アドバイザーに聞いたところ、「RPA、AI、DXなどは人間でなくて

もよい作業をこなすものであって、まずは人間ありきである。365日24時間ミスなくやってくれる便利なものであることは間違いないが、頼り切ってしまったら大変なことになってしまう。万能でないことを前提に進めていかなければならない。」と言われました。なるほど、私が経営する会社は、活用すればいい、何とかなるんじゃないかということだったのですが、とんでもない方向に行っていたんだと思います。

提言・まとめの④に、デジタル教科書があります。

これも、デジタルの教科書になったから、すべてが解決し、すべてがいいところに向かうと言いたいところですが、便利なところとそうではないところがあることを、私たちは踏まえるべきだと思います。

従って、便利なところだけを利用していくことこそが、利活用だと言えるのだと思います。最も重要なのは、こんなに媒体が発達した今ですが、Face to Face、人対人のところであって、このRPAなど、限界を見定めてやっていくことが、重要だと思った次第でございます。

木屋課長 まさしく、言っていただいたとおりだと思います。

先ほど申し上げたように、子供に対する一番の教育環境の一つは教員だというふうに思っております。

便利なタブレットやデジタルツールをどう使うか。データを使って、子供たちにどう接していくのか、どう子供の学びをファシリテートしていくのか。やはり、決してこれがすべてではないと思います。

具体的に言うと、デジタルの良さもあれば、鉛筆でノートに字を書く大切さというのも当然ありますし、何が子供たちにとって必要なものなのか、よりいいものなのか、そういったことを、我々教育委員会もそうですけれども、学校の子供の実態をしっかりと見ながら、この呉市のICT教育を進めていきたいというふうに考えております。

若野委員 ICTは、子供にとってでもあるのだらうと思いますが、職員の休憩時間であったり、そういう状況は良くなっているのでしょうか。

木屋課長 先ほどの説明の中でも教職員の働き方改革につなげていくということでお伝えをしましたけれども、やはり、タブレット等が活用される、教員もタブレットを持っていますので、今の子供の様子がタブレットを通じて確認できることもありますし、これまで、紙で資料配布等していたものもタブレットで共有したりとか、あるいは、会議一つをとってみても、タブレットを使ってオンラインで手軽に実施できるようになったりとか、そういう点で、働き方改革というのは、大きく進んでいる部分はあるかと思えます。

この、ICTの活用を進めるということで、呉市の働き方改革取組方針がございますけれども、その中でも一つ大事なツールとして、取組を進めているところです。

ただ、実際に先生方がこれを使いこなせているかどうかという点では、まだまだ研修が必要な部分もございますし、あるいは、環境面でもっと整備をしないといけない部分も多々あると思いますので、しっかりと継続して取り組みたいと考えております。

教育長 学校教育課長が言ったように、まだ導入初期であり、機械に慣れるというのは、やはり大変だらうと思いますし、業務量は若干増えたところはあると思います。

けれども、それが慣れることによって、だんだん削減できる部分もある。

やはり、もう少し時間を見ながら、きちんと冷静に見ていく必要があるかなと思います。

藤 脇 委 員 ③ SNSの相談アプリの導入についてですが、導入して、子供たちがその相談を求めてきたときに、どのように対応して、どのように周知して、どのように連携をとるのか、詳しく教えてください。

田 村 課 長 この相談アプリというのは、子供たちが今タブレットを持っていますが、そこに相談アプリを取り込んで、子供たちが相談したいときに、LINEやチャットという形で相談する機能になっています。基本的に民間が開発されて運営されておりますので、様々なものがございます。

あるものでいいますと、アプリを使って子供が相談をしたら、学校の先生につながるようなアプリもあります。また、子供たちが相談するときに、臨床心理士の資格を持ったような専門家に相談がつながるような、それぞれそのアプリによって、条件が違います。

臨床心理士といった専門家に直接つながるアプリで、緊急対応の判断基準があり、たとえばAの場合には即、警察につなげる、Bの場合には、教育委員会につながる、Cの場合は連絡なしというようなアプリもあります。

一概に相談アプリはこういう形ですとは申し上げられませんが、子供たちが気軽に相談できるシステムではあると思っています。

また、その対応については、学校が直接対応することもあれば、先ほど申しましたように、専門家の方が対応するというようにアプリによって様々あります。

教 育 長 今の子供はどちらかという、顔が見えない相談をしたがる子もいます。

いろんな選択肢の中の一つになろうかと思いますが、これだけがすべてではないと思います。

佐々木委員 あえて言うと、利活用について。先ほど大之木委員が言われたことに尽きると思います。

学校評価委員会に出たとき、保護者代表の方が、このAIの活用に将来頼りすぎたいくことに対する不安というものを多少抱えているということです。

さっき言われたようなFace to Faceという部分、皆さんも、御承知のことなので、あえて言わせていただくと、そのようなところを踏まえた上での検討をしていただきたいと思います。

教 育 長 ほかに御発言はありませんか。

(なしの声)

教 育 長 御発言なしということで、それでは、本件についてはこの程度とします。

以上で定例会を閉会します。

(15:25)

上記のとおり，会議の次第を記載して，その相違ないことを証するため，ここに署名する。

（ 教育長 寺 本 有 伸 ）

（ 委 員 大之木 小兵衛 ）

（ 委 員 若 野 文 江 ）

（令和7年4月25日定例会）